

住宅火災による死者発生状況

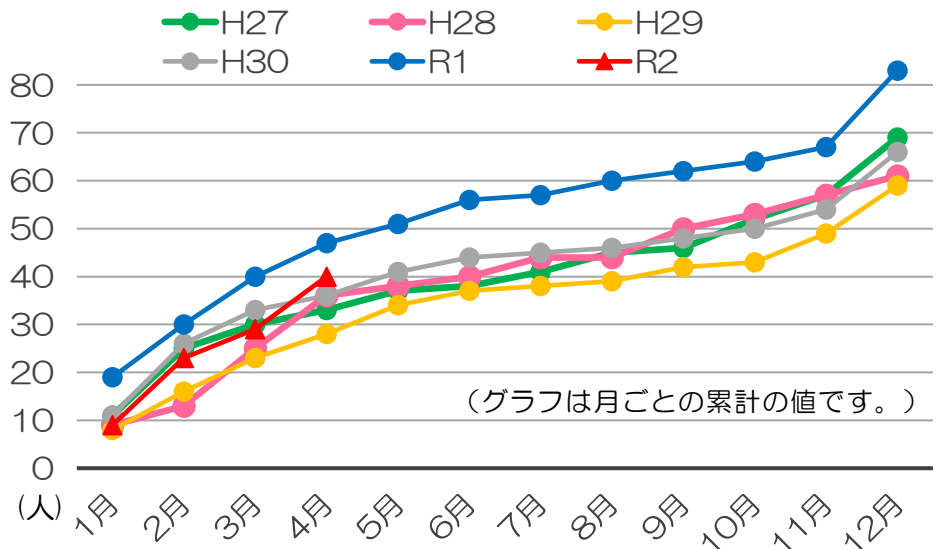
《平成27年以降の住宅火災による死者発生状況》

右のグラフをしてみると、令和元年には火災による死者の発生数がそれまでの数年間よりもひときわ多く発生しているのが分かります。

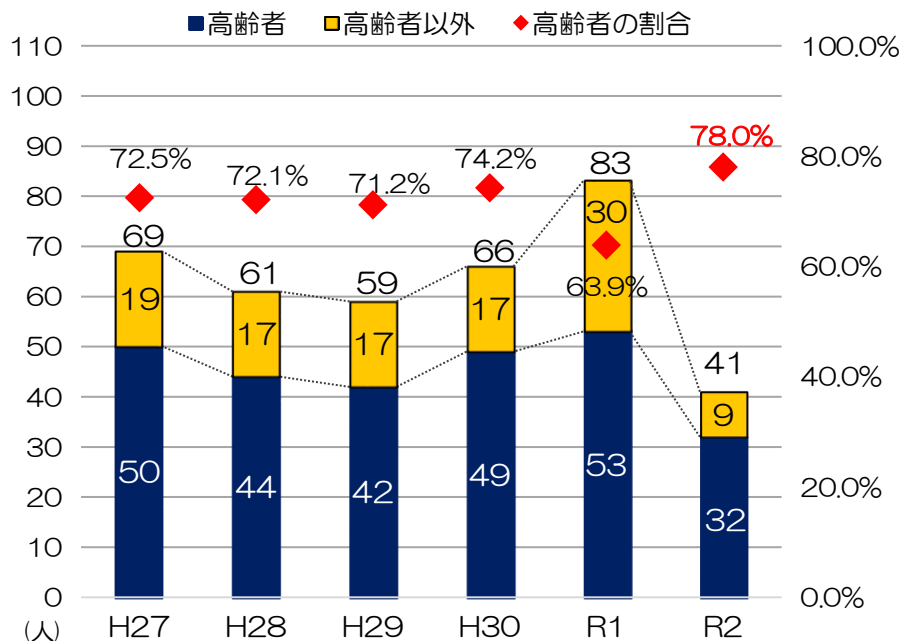
本年中では、4月29日時点での住宅火災による死者は、41人で昨年の同時期（平成31年1月1日から4月29日まで）と比較すると、6人減少しています。

しかし、4月に入ると、住宅火災による**死者が12名**（速報値）発生しており、4月期においては**過去10年間で最多**の発生数となっています。当署管内でも4月中に1名の死者が発生しております。昨今の新型コロナウイルス感染症拡大に伴って在宅時間が多くなっているなか、**子どもの火遊び（ライター、マッチ、花火等）や調理中の不注意、たばこの火の不始末など、日常生活に起因する火災の発生には十分に注意しましょう。**

また、本年は火災による死者数に対する**高齢者の割合が過去5年と比べて高くなっております。**高齢者の方は、火災発生時に避難が遅れがちになる傾向があります。危険を感じた際には、**素早い避難を第一に考え、命を守るための行動**を取るようにしましょう。



H27	11	14	5	3	4	1	3	4	1	6	5	12
H28	9	4	12	11	2	2	4	0	6	3	4	4
H29	8	8	7	5	6	3	1	1	3	1	6	10
H30	11	15	7	3	5	3	1	1	2	2	4	12
R1	19	11	10	7	4	5	1	3	2	2	3	16
R2	9	14	6	12								



留守番中の子どもの事故を防止しよう

《子どもの「やけど」事故に注意！》

新型コロナウイルス感染症の影響から、学校の臨時休校で外出を控えて、子どもだけで留守番をする機会が増えていると思います。昼食時には、子どもが一人で簡単に、お湯で調理できるカップ麺・インスタントスープ・味噌汁等を食べる時に、「やけど」をする危険があるので注意が必要です。

「やけど」の事故により救急搬送された人の割合を見てみると、全体の40%※が12歳以下の子どもとなっています（図1参照）。

◆◆関連器物別の発生状況◆◆

「やけど」に関連する器物の上位3つは、ポット・熱湯が150人、味噌汁・スープが103人、カップ麺・麺類が80人の順となっています（図2）。

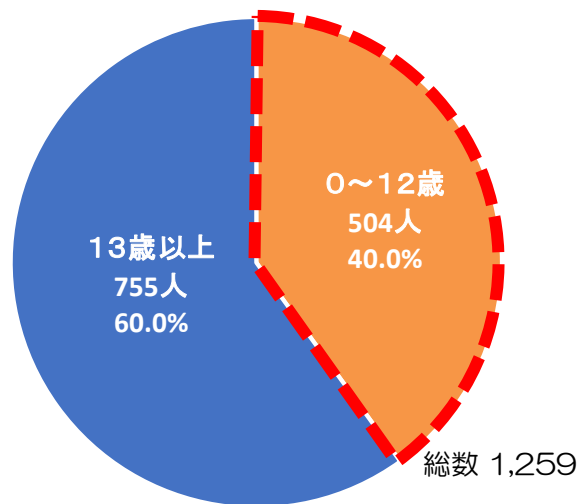


図1 「やけど」による年齢別救急搬送人員（平成30年中）

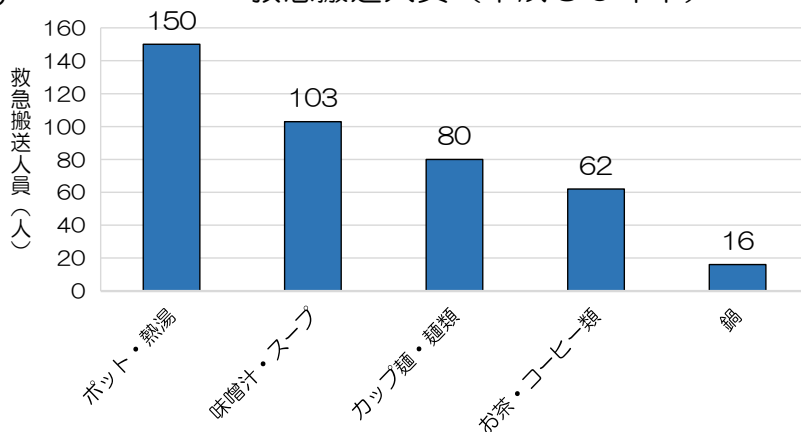


図2 関連器物別救急搬送人員上位5種（平成30年中）

「やけど」を防ぐために

- やけどの恐れのあるものは、子どもの手の届くところに置かないようにしましょう。
- 子どもを抱いたまま、調理をしないようにしましょう。
- 熱い食べ物等は、冷ましてから子どもに食べさせましょう。

日本堤消防署管内の災害状況[令和2年中]

	令和元年総計	令和2年 5月14日現在
火災件数	31件	13件
焼損床面積	32㎡	20㎡
救助件数	140件	51件
救急件数	5,493件	2,062件

お問合せはこちらまで

日本堤消防署（本署） 03-3875-0119
 日本堤消防署今戸出張所 03-3873-0119
 日本堤消防署二天門出張所 03-3845-0119
 E-mail nihondutumi2@tf.d.metro.tokyo.jp

メルマガ配信希望者は日本堤消防署（本署）
 警防課防災安全係までお問合せください。
 （個人でも配信登録は可能です）